

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2022 No.18

JACET 関東支部ニューズレター第 18 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 山口 高領 (秀明大学)

2021 年総会以降、支部長を引き継ぎました山口高領です。2023 年 6 月の総会まで任せていただきながら、JACET の理事会に参加し、関東支部の運営の責任者となっております。よりよい運営のために、ご質問、ご意見をお気軽にいただきましたら幸いです。

2021 年度に関東支部で行われたことは以下です。

- (a) 第 14 回支部大会(7/11)
- (b) 支部講演会(6/12, 10/9, 12/11)
- (c) 支部企画ワークショップ(11/6)
- (d) 支部総会(7/11, 11/6)
- (e) 「JACET-Kanto Journal Vol.9」の発行(3/31)

こうした企画の実施のために、関東支部の運営委員会では、以下のように運営会議を計 10 回行いました。

4/10, 5/8, 6/12, 7/10, 9/11, 10/9, 11/6, 12/11, 1/8, 3/5

もちろん、こうした会議に向けて各委員の先生方が運営を進めてくださいました。

本ニューズレターでは、10 月からこの 3 月までに行われた第 2 回支部総会、支部講演会、支部企画ワークショップ、支部研究会活動報告、関東支部紀要の最新号の概要が掲載されています。

また、2022 年 7 月 9 日 (土) に開催の支部大会についてもお知らせします。基調講演とワークショップはお呼びする先生も時間帯も決まりました。JACET 会員の皆さまは参加無料ですので、奮ってご参加ください。

目次	
・ <u>巻頭言</u> JACET 関東支部長 山口高領.....	1 -
・ <u>第 2 回支部総会報告</u> 支部事務局幹事 長田恵理.....	2 -
・ <u>支部講演会委員会報告</u> 支部講演会委員 青木理香	3 -
・ <u>JACET 関東支部企画報告</u> 山口高領.....	5 -
・ <u>支部研究会活動報告</u> 各研究会代表.....	5 -
・ <u>支部大会運営委員会からのお知らせ</u> 支部大会運営委員長 山口高領.....	13 -
・ <u>支部紀要編集委員会からのお知らせ</u> 支部紀要編集委員長 鈴木彩子.....	14 -
・ <u>事務局だより</u> 支部事務局幹事 長田恵理.....	15 -

第2回支部総会報告

支部事務局幹事

長田恵理（國學院大學）

2021年11月6日（土）にオンラインで、2021年度第2回支部総会が開催されました。支部総会では、2022年度支部事業計画・予算案及び2022年度支部人事についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。日程等の詳細についてはその後変更あるいは確定した場合、そちらを反映させておりますことをご理解ください。予算案については省略致します。

■2022年度支部事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会の開催

名称：2022年度関東支部大会

日程：2022年7月9日（土）

場所：オンライン

規模：約150人

(2) 講演会及びワークショップの開催

名称：JACET 関東支部講演会

日程：2022年6月11日（土）、10月8日（土）、12月10日（土）の3回を予定

場所：未定（オンライン、対面、あるいはハイブリッド）

内容：未定

規模：毎回約60人

目的：

1) 支部講演会では、講演会を定期的実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。

2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

(3) 支部企画の開催

名称：JACET 関東支部企画

日程：2022年11月12日（土）を予定

場所：未定

内容：未定

規模：約60人

目的：

1) 支部講演会のない月に実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。

2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

(1) 『JACET 関東支部紀要』第10号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2023年3月31日（金）

形態：XMLデータ(ウェブ掲載)

目的：

1) 広く原稿を募集し、支部会員の研究の活性化と質の向上を図る。

2) 既存の記事種別に加え、新たな種別の創設などを通して若手研究者の発掘・育成を試みる。

以上、査読を充実させることにより、様々な研究分野や研究手法を評価できるように努める。

(2) 「JACET 関東支部ニューズレター」

日程：2022年9月30日（第19号）

2023年3月31日（第20号）

形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページにPDFで掲載）

目的：支部活動の動向や支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行う。

III. その他（5号事業）

(1) 支部総会の開催

名称：2022年度第1回、第2回関東支部総会

第1回

日程：支部大会と同日を予定

形態：オンライン

目的：2021年度の支部の事業報告、会計報告及

び 2022 年度の支部の事業計画

第 2 回

日程：2022 年 11 月 12 日（土）（関東支部企画と同日に実施）

形態：オンライン

目的：2023 年度の支部事業計画、予算案及び人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日程：2022 年 4 月 9 日、5 月 14 日*、6 月 11 日、9 月 10 日*、10 月 8 日、11 月 12 日、12 月 10 日、2023 年 1 月 14 日*、3 月 11 日を予定（*の日程については必要な場合に限り実施する。）

形態：オンライン

目的：支部の運営における審議、計画の立案

■2022 年度支部人事■

【支部人事】（2021 年度より任期 2 年間）

支部長（1 名） 山口高領

副支部長（1 名） Paul McBride

支部事務局幹事（3 名） 長田恵理、新井巧磨、中山夏恵

支部幹事（5 名） 長田恵理、新井巧磨、中山夏恵、鈴木彩子、青木理香

支部会計担当者（2 名） 辻りこ、佐竹由帆

支部研究企画委員（34 名）

青木理香、新井巧磨、伊藤泰子、今井光子、上田倫史、遠藤雪枝、大野秀樹、長田恵理、小張敬之、清田洋一、熊澤孝昭、河内山晶子、菊池尚代、小屋多恵子、荊紅涛、酒井志延、佐竹由帆、佐野富士子、下山幸成、鈴木彩子、鈴木健太郎、関戸冬彦、田口悦男、辻りこ、中竹真依子、中山夏恵、馬場千秋、藤枝豊、藤尾美佐、山口高領、山本成代、渡辺彰子、

Brian Wistner、Paul McBride

上記に加えて、2022 年度より以下の 2 名を追加。

史 傑（電気通信大学）

西川 恵（東海大学）

【本部役員（理事）】（任期は、2021 年定時社員総会の日から 2 年後の定時社員総会まで）

支部長（1 名） 山口高領

（2021 年 6 月定時社員総会后～2023 年 6 月まで）

支部講演会委員会報告

支部講演会委員

青木理香（東洋大学）

■2021 年度下半期活動報告■

2021 年度下半期は、上半期に引き続きオンラインで支部講演会が 10 月、12 月の 2 回開催された。10 月 9 日には、文教大学教育学部准教授の福田スティーブ利久先生をお招きして、「The Autonomy-Supportive Classroom: Guiding Learning using Formative Assessment and ICT Tools」というタイトルでご講演していただいた。オンライン開催であったが、40 名以上の参加者があり、アクティブラーニングツールを使って参加者とインタラクティブにやり取りしながら進めていただき、大変有意義な講演会となった。12 月 11 日には、元横浜国立大学教授の佐野富士子先生をお招きして、「教育実践に取り入れたい最新の SLA 研究—ISLA（学びの場における SLA）を中心に—」というタイトルでご講演していただいた。この回も 70 名近くの参加者があり、参加者との活発な質疑応答からも得るものが大きい講演会だった。発表詳細については、後述の支部講演会発表報告・概要を参照されたい。

■下半期支部講演会 発表概要・報告■

(1) 第 2 回支部講演会

日時：2021 年 10 月 9 日（土）16:00-17:20

講師：福田スティーブ利久 先生（文教大学准教

授)

場所：オンライン (Zoom)

題目：The Autonomy-Supportive Classroom: Guiding Learning using Formative Assessment and ICT Tools

発表概要：Language learning in the EFL context is a long journey making planning necessary for success. Planning is a skill. Skills are capacities that all learners have which can be developed with training. However, most English courses do not provide this training. Thus, in our view, without the necessary training to plan for this long journey students quit before reaching their destination (i.e., stop learning upon receiving credit for a required EFL courses). Since 2011, we have introduced and improved the Guided-Autonomy Syllabus (GAS), a 15-week EFL course, which aims to provide the necessary "fuel" (i.e., skills to effectively plan, execute, and evaluate their learning) for this long journey so Japanese university students can potentially regulate their own learning after receiving that "credit". In our time together, our goal will be to gain a deeper understanding of the importance of learning skills training and the GAS syllabus while leaving with an idea or two for use in classrooms to facilitate (not teach) EFL for our students' futures.

報告：多くの学生にとって公的な教育機関で学ぶ最後の機会となる大学において、英語の授業ではどんなことを教えるべきなのか？学生個々人が持つ学習上の目標を達成するためには授業外でも学習を進める必要があり、これを実現するためには学習者の自律が重要である。「計画→実行→評価」というプロセスを繰り返しながら、学習者

に効率的に学習したり自らの学習をコントロールしたりする能力を習得させる方法について議論がなされた。具体的には、まず教員主導でラーニングマップを作成することから始め、最終的には学生主導で振り返りや学習データ分析を行うという方法であった。講演中は、ご自身の実践例や実験結果を通し、約 40 名の参加者に対して双方向にコミュニケーションを取りながらわかりやすく説明していただいた。(青木理香・東洋大学)

(2) 第3回支部講演会

日時：2021年12月11日(土) 16:00-17:20

講師：佐野 富士子 先生 (元横浜国立大学教授)

場所：オンライン (Zoom)

題目：教育実践に取り入れたい最新の SLA 研究—ISLA (学びの場における SLA)を中心に—

発表概要：外国語学習環境における英語教育において、SLA からどのような示唆が得られるのかを中心に、最新の SLA 研究の発達状況や成果を紹介した。また、理論やデータに基づき、実践ともリンクする最新の SLA の観点から見た英語指導のアプローチを提案した。具体的には、どのようなインプットを与え、どのような指導を行えば、学習者の英語力はどのように伸びるのか、を中心とする「学びの場における外国語の習得」に関する最新の情報を紹介した。

報告：発表では、SLA 研究で注目される指導による第二言語習得研究 (Instructed Second Language Acquisition) の最前線についてご講演いただいた。年末にもかかわらず 69 名の参加者があり、質疑応答では、研究分野をいかに現場の実践に応用するかという問いを発端に、佐野先生ご自身の大学での実践にも話題が広がるなど熱気あふれるひと時となった。

(中山夏恵・文教大学)

■2022 年度上半期活動計画■

2022 年度上半期は、2022 年 6 月 11 日（土）に第 1 回支部講演会をオンラインにて開催予定です。第 2 回は 10 月 8 日（土）、第 3 回は 12 月 10 日（土）を予定しています。講演者はいずれも未定です。決定され次第、JACET メーリングリスト等でお知らせします。

JACET 関東支部企画報告

JACET 関東支部

山口 高領（秀明大学）

■JACET 関東支部企画ワークショップ■

日時：2021 年 11 月 6 日（土）14:00-17:00

場所：オンライン

題目：初めて学ぶベイズ統計入門

講師：片桐 一彦先生（専修大学教授）

概要：

2021 年 11 月 6 日（土）に Zoom を使って行われました。

この企画は研究手法に焦点を当てたものであり、この回では「初めて学ぶベイズ統計入門」として、片桐一彦先生（専修大学）に講師をお願いすることができました。

100 名ほどの申込みをいただき、当日は 60 名程度の方が参加しました。片桐先生から後日、学習のための文献情報をいただきましたので、以下に示します。

【入門用お薦め図書 5 点】

1. 涌井良幸・涌井貞美. (2010). 『Excel でスッキリわかるベイズ統計入門』日本実業出版社.
2. 涌井良幸・涌井貞美. (2016). 『身につくベイズ統計学』技術評論社.
3. 豊田秀樹. (2016). 『はじめての統計データ分析 ―ベイズ的〈ポスト p 値時代〉の統計学―』朝

倉書店.

4. 馬場信哉. (2019). 『実践 Data Science シリーズ R と Stan ではじめる ベイズ統計モデリングによるデータ分析入門』講談社.

5. 豊田秀樹(編). (2018). 『たのしいベイズモデリング: 事例で拓く研究のフロンティア』北大路書房.

1 と 2 は、初心者にとってとっかかりやすい超入門用。

3 は、本格的な学習の第一歩に。

4 は、R と Stan を使った実践的な第一歩に。

5 は、伝統的統計学（頻度論）のもとの研究デザインという発想の殻を破って、創造的モデル作りを知るための第一歩に。

支部研究会活動報告（2021 年度）

各研究会代表

■SLA 研究会■

代表：原田 淳（2021 年 12 月まで）／
吉富 朝子（2022 年 1 月から）

SLA 研究会では、第二言語習得研究の成果を日本の英語教育の場に活用すべく、理論と実践の融合を目的としています。この目的に沿った活動として 2021 年度は 2 種類の研究活動を行いました。

1. 課題図書 の 輪 読 会

課題図書の中から選んだ章の要約を発表し、意見交換を行いました。グループワークやタスクを用いた教室指導についての示唆に富む輪読会となりました。

日時：①6 月 26 日、②10 月 3 日、③10 月 31 日
1) Mackey, A. (2020). *Interaction, feedback and task research in second language learning*.

Methods and design. Cambridge University Press.

2) Muir, C. (2020). *Directed motivational currents and language education: Exploring implications for pedagogy*. Multilingual Matters.

3) Ellis, R., Skehan, P., Li, S., Shintani, N., & Lambert, C. (2019). *Task-Based Language Teaching: Theory and Practice*. Cambridge University Press.

2. 公開講演会

オンライン会議形式で公開講演会を行いました。講演者の先生方に、SLA研究の成果を踏まえていかに英語教育を効果的に行ったらよいかをご教示いただきました。どの回も盛会で、講演後の質疑応答も盛んに行われました。

1) 2021年度第1回オンライン公開講演会

日時：5月22日（土）16:00-17:30

講演者：斉藤一弥先生（University College London）

演題：「効果的な英語リスニング・スピーキング教育とは何か：最新のSLA研究への招待」

2) 2021年度第2回オンライン公開講演会

日時：9月18日（土）16:00-17:30

講演者：吉富朝子先生（東京外国語大学）

演題：「第二言語習得理論を踏まえた英語スピーキング指導と評価」

3) 2021年度第3回オンライン公開講演会

日時：12月19日（日）16:00-17:30

講演者：和泉伸一先生（上智大学）

演題：「Interface issues and English teaching: What's the relevance & What should we do about it?」

4) 2021年度第4回オンライン公開講演会

日時：3月19日（土）16:00-17:30

講演者：吉富朝子先生（東京外国語大学）

演題：「日本の英語教育への語用論指導導入に向

けて」

3. 研究会のホームページ

研究会のホームページを立ち上げ、広報活動を始めました。

<https://jacet-sla.jimdofree.com/>

■テスト研究会■

代表：松本 佳穂子

1. 研究テーマ

昨年度に続き assessment literacy の研究を中心に、「スキル統合型テスト」の作成及び評価方法などの研究において、最新の理論を反映し、かつ実践に結びつく知見を得ることを目指して様々な検証を行った。

今年度遂行した研究活動は以下の5件である。

- 1) 日本の英語教育のための Assessment literacy に関する Can-do リストの検証と改善
- 2) 様々なスキル統合的テストの分析と開発
- 3) 小学校英語の評価のためのニーズ調査・分析
- 4) 教室内評価に関する日本人英語教師の信条 (Belief)、自己効力感 (Self-efficacy)、実践状況 (Practice)の調査・分析
- 5) ELF (世界共通語としての英語) を視野に入れた英語力の測定方法研究

2. 活動内容

1) 毎月の研究例会

昨年度に続き今年度もコロナ禍のため、毎月の研究例会発表や討議は全てオンラインで行った。昨年までは評価に関する書籍を取り上げてきたが、今年度からは主に国際学会誌(Language Testing/ Language Assessment Quarterly/JALT Journalなど)に掲載された論文から上記5つの研究テーマに関連するものを選び、毎回、発表、質疑応答、論点のまとめという流れで進めた。また、学会発表の準備や内容の議論も行った。

2) ワークショップ開催

9月11日に教職を目指す学生と現職教員のための第13回ワークショップをオンラインで行った。現行学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」をテーマに掲げ、アセスメントの基本的な理論、構成概念、評価法、項目分析に関する講義、モデル授業、参加者によるテスト作成とその批評活動及び評価方法に関する議論を行った。

3) 学会発表

読書会から得た知見や上記ワークショップのアンケート結果を踏まえて、実際のテスト結果の分析などを基に、学会発表を行った。

●AILA 国際大会での研究発表：TOEFL のスキル統合問題を解く際に使われるストラテジーについて量的・質的分析をし、その結果を発表。

●JACET 国際大会におけるシンポジウム：5人の代表が、現在の大学入試の問題点と今後のあるべき姿について様々な角度から提案をし、参加者と活発な議論を行った。

●JACET 国際大会の SIG ポスターセッション：90年代からの本研究会の活動の足跡に加えて最新の研究成果を図表を含む分かりやすい形で提示。本研究会の活動内容を多くの会員、参加者に知っていただく貴重な機会となった。

3. 今後の活動予定

引き続き上記の5つのテーマに関する研究とその成果の学会発表を進める。夏期ワークショップも開催し、さらにテスト研究会の主たる成果をウェブサイトを開設して共有する予定である。

■ 談話行動研究会 ■

代表：土屋 慶子

談話行動研究会では、談話分析、語用論を中心に様々なテーマを取り上げ、年に3回程度研究会を開催しています。今年度は下記の講演会を催し、3月には若手研究者発表会を予定しています。

今年度一回目は12月10日に“Visual bodily

signals as core coordination devices in talk” というタイトルで、Judith Holler 氏 (The Donders Institute for Brain, Cognition & Behaviour, The Max Planck Institute for Psycholinguistics) にご講演をいただきました。人と人の会話、あるいは人と PC 上の Agent (アバター) との会話をデータに、相槌や手振りはもちろん、瞬きの長さに至るまで、相互行為の中で使用される多様な意味記号を包括的に分析した、マルチモーダル分析の最前線のご研究をご紹介くださいました。二回目は1月21日に、Simon Harrison 氏 (City University of Hong Kong) に “From grammar gesture nexus to relational languaging” というタイトルでご講演いただきました。英語母語話者の会話にみられる否定表現と特定のジェスチャーの共起や、中国語話者の贈答時の相互行為において、繰り返しみられる受取拒否のジェスチャーなど、ジェスチャーやことばを含むやりとりを人類学的な視点から分析したご研究についてお話しください、大変興味深い内容でした。ともにオンラインで開催し国内外から多くの皆さんにご参加いただき、ご講演後の活発なディスカッションも含め、有意義な研究会となりました。

また、この原稿の提出後となりますが、3月12日に開催されます第三回談話行動研究会では、恒例の若手研究者発表会を予定しております。小林かおり氏 (日本女子大学大学院 博士課程後期2年) が「日本語会話における会話参加者の力関係とあいづち生起位置の分析」というタイトルで、鈴木紅緒氏 (国立大学法人宇都宮大学 基盤教育センター 助教) が “Exploring role of L1 repertoires in L2 learning: A conversation-for-learning study” というテーマで、研究成果をご発表くださる予定です。新年度も、国際的・学際的な研究会として、多彩なテーマで講演会・研究会を開催する予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。

■オーラル・コミュニケーション研究会■

代表：塩沢 泰子

コロナ下2年目となった今年度は、状況に応じてオンラインや対面、併用でそれぞれの特徴を生かしながら様々な活動を精力的に実施しました。

夏のJACET国際大会においては、2020年12月に実施したオンラインによる Oral Communication Festival (第25回 OCF。会員が指導する学生ならびに教員自身の劇や朗読、スピーチなどオーラル・コミュニケーション活動の発表・相互評価の場)の概要と成果、課題を、研究会メンバー5名(野村・大川・ムーディ・佐伯・塩沢)が動画やスライドを用いて発表しました。活発な討議がなされ、研究会の主行事である OCF の意義が広く認識されました。

8月末には研究会の研修の一環として、講師に演劇教育家オーハシ・ヨースケ氏を招き、教員と学生を対象に絵本ワークショップをオンラインで行い、参加者から好評を得ました。適宜ブレイクアウトルームを活用し、複数の大学の学生が協働作業で話の展開を予測したり、演じあったりし、オンラインの可能性が広がりました。

毎年12月に開催する恒例行事の OCF は、コロナ感染の状況を踏まえ、今年度は対面とオンライン(Zoom)併用で12月18日(土)に文教大学あだち校舎で実施しました。会全体を常に Zoom で配信しつつ、前半に来校できない大学がオンラインで事前に収録して YouTube に搭載した作品を共有する形で鑑賞・評価し、後半は対面の大学のホールで生で演じる、という流れで行いました (Zoom 参加：南山大学、公立鳥取大学、明海大学。対面参加：甲南大学、名古屋外国語大学、青山学院大学、日本大学、文教大学)。従来通り、相互評価を重視し、聴衆はオンラインの場合はチャットで、対面では用紙に発表直後にコメントを記入し、事後に共有しました。最後は参加者全員でクリスマスソングを輪になって歌い、オンライ

ン・対面とも心をひとつにしました。OCF 終了後に “After Talk”セッションを学生の司会進行でハイブリッド状態で日本語で行い、発表の裏話などを語り合い、和気あいあいとした雰囲気の中で締めくくりました。

2022年3月に朗読家の青谷優子氏を招き、オンライン朗読ワークショップを JACET の補助金を一部活用して実施予定です。氏は元 NHK 国際報道アナウンサーという経験を活かし、Read Alive を主張して教育活動をされています。本研究会のメンバーならびに学生を対象に2つの作品を指導していただく予定です。研究会活動に更なる刺激になると期待しています。

興味のある方々はぜひ OCF の見学や研修会への参加を検討されますよう。

■バイリンガリズム研究会■

代表：平井 清子

バイリンガリズム研究会は1996年設立以来、CALP や PISA 型リテラシーの発達や育成について研究し、日本の内外におけるバイリンガル教育について調査を行っています。2021年度は、これまでに小学校、中学校、高等学校、そして大学レベルでの言語教育はどうあるべきかをバイリンガリズムの視点から検討してきたことをさらに発展させ、Translanguaging の観点から研究会で理解を深めました。

1. 理論研究

最近注目されている概念である Translanguaging について、以下の Garcia (2009) を各章ごとに丁寧に輪読しました。基礎的理論を社会言語学観点、バイリンガリズムの観点などから学びました。この間、メンバーからの Translanguaging に関する研究発表を取り入れながら議論し、さらに、これまでの研究会での発表やお互いの研究を取り入れたディスカッショ

ンをしながら理解を深めました。1 月には Translanguaging 研究の第一人者である加納なおみ先生をお招きし、「トランス・ランゲージングの意味と役割—言語教育の潮流と日本の文脈から考える—」と題する理論から実践に関しての幅広いご講演をしていただきました。

今後研究会では、日本の学校教育や大学教育への実践へ議論を進め、具体的な授業設計や授業実践そして評価に進めたいと考えています。これまでに以下の著書を輪読してきました。

Garcia, O. (2009). *Bilingual Education in the 21st Century*. Wiley-Blackwell.

2. 学会発表

活動の成果を以下のように発表しました。

「バイリンガリズム研究会 Translanguaging の英語教育を考える—バイリンガリズム理論における言語と思考の関係性から—」

The 60th JACET International Convention (Online, 2021)

JACET Hours 8月27日(金) 9:00-10:00

3. 情報公開

研究会のウェブを運営し情報発信しました。

<https://www.clas.kitasato-u.ac.jp/faculty/jacet-bilingualism>

■ESP研究会■

代表：西川 恵

ESP（関東）研究会は English for Specific Purposes 研究の促進とより効果的な教授法の追究を使命とし、活動しております。開催される研究会では、講師による研究発表や実践報告を共有し、ディスカッションを通して理論や教授法についての知識を深め合う場としています。2021 年度は、講師をお招きして遠隔授業のアイデアや

ICTの応用についての研究発表会を開催しました。また、JACET SIG 発表会にて、研究会活動報告ならびに会員の研究発表も行いました。

<2021年度研究発表>

1) **Date:** July 17, 2021 (Sat) 15:00 ~17:00

Venue: Zoom

Program:

15:00~16:00

Presentation: Using automatic speech recognition to develop speaking skills

Presenter: Professor Paul Daniels, Kochi University of Technology, Kochi Prefecture, Japan

2) **Date:** October 30, 2021 (Sat) 15:00 ~17:00

Venue: Zoom

Program:

15:00~16:00

Presentation: Technology-enhanced vocabulary learning: a longitudinal study

Presenters:

1. Michael Sharpe, Kochi National University, Kochi Prefecture, Japan

2. David Grant, National Institute of Technology, Kochi College (Kochi Kosen)

3) **Date:** January 22, 2022 (Sat) 15:00~17:00

Venue: Zoom

Program:

15:00~16:00

Presentation: Developing and evaluating a computer-based speaking test for Japanese university admissions

Presenter: Zhou, Yujia, project lecturer at Tokyo University of Foreign Studies

<2021年度JACET SIG発表>

- 1) **14th JACET Kanto Chapter Convention**
–*English Language Education in Universities during the New Era of Digital Transformation: Hybrid, HyFlex, and Face to face Learning*

(<https://jacet-kanto.org/2021convention/index.html>)

Date: July 11, 2021

Venue: Zoom

Program:

Introduction of SIG: ESP Kanto Chapter – *ESP in an Online Environment*, by Foss Patrick (Tokyo Medical and Dental University), Yu Yan (Tama University), Shin'ichi Hashimoto (Tokai University), and Megumi Nishikawa (Tokai University)

- 2) **The Japan Association of College English Teachers (JACET) Conference 2021**

(<https://jacet.org/jacet60th/>)

Date: August 25 - 29, 2021

Venue: Zoom

Program:

JACET SIG発表:

Working Towards Building an English Sub-Major at Mid-Level Japanese University by Robson Graham (Toyo University)

Our journey thus far and future direction by Shinichi Hashimoto (Tokai University)

- 3) **The Japan Association of Applied Linguistics (JAAL) in JACET Conference 2021**

(<https://jaal.site/2021/>)

Date: December 4, 2021

Venue: Zoom

Program:

JACET SIG発表:

The Analysis of Language Choices of Online Translation Services on Japanese Prefectural Websites by Jie Shi (University of Electro-Communications)

■言語政策研究会■

代表：杉野 俊子

2000年発足の本研究会（会員数約60名）は以下の2点を特徴としています。

1. 急速なグローバル化と情報ネットワーク化の中で、少数言語や多言語教育と摺り合わせながら、英語の影響力や言語現象の問題・矛盾点を客観的に考察していく。また、近未来の言語教育の第三の道や未来予想図を提示していく。
2. 広い担当言語分野：英語・日本語・第二外国語・ろう教育と多岐に渡る研究分野：英語学習者、留学制度、教育政策、教師教育、少数言語話者・移民、機械翻訳等。

年間の活動は、第3土曜日にオンライン月例会を開催。前半は専門書の輪読、後半は会員・非会員による言語や教育に関する研究発表（英語/日本語）と意見交換。4月はベトナム国立大学の Bich Nguyen によるベトナムの教師教育について、5月「現代日本語における外来語の氾濫と定着」茂木俊伸（熊本大学）6月 P. Ferguson（近畿大学）による小学校英語教育の歴史と実践について、9月「英語イデオロギーの多様性」森谷祥子（東大大学院）、10月「パキスタンの言語政策の変遷と国語教育」須永恵美子（東京大学附属図書館アジア研究）、11月「複言語主義からみる第二外国語教育—高校スペイン語授業実践の省察から—」樋口拓也（立教池袋高等学校）、12月「私の言語政策研究の原点と軌跡」田中慎也（元桜美林大学）、1月是非英語母語話者を言語資源とする提案を S.

Perry (早稲田大学大学院) が行いました。

他の研究会との協賛にも以下のように取り組みました。

- ① 7月24日、第220回東アジア英語教育研究会と共催、原隆幸(鹿児島大学)三村千恵子発表(宇都宮大学)
- ② 8月28日 JACET 第60回 JACET 国際大会、杉野俊子(SIG代表)・原隆幸(鹿児島大学)・野沢恵美子(中央大学)
- ③ 12月4日 JAAL in JACET、杉野俊子・原隆幸(鹿児島大学)・波多野一真(創価大学)
- ④ 2月26日 JACET 言語政策 SIG2021 年度年次特別研究会、金沢星稜大学 田中富士美(金沢星稜大学)、中川洋子(武蔵野大学)、波多野一真「在日外国人の司法アクセスと機械翻訳の利用」、野沢恵美子「インド女性の戦略的な教育の利用と地理的・社会的移動」「次期出版について」杉野俊子、柿原武史(関西学院大学)

8月には本研究会の有志(21名)で『「つながる」ための言語教育:アフターコロナのことばと社会』杉野俊子 監修 野沢恵美子/田中富士美 編著(明石書店)で出版しました。新しい視点から「つながる」ための言語教育の現状と、それに必要な将来の言語教育の姿や可能性を示唆しました。

■授業学研究会■

代表:馬場 千秋

副代表:松家 由美子

1. 研究テーマ

本研究会は、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとしている。少子化、大学全入時代に伴う大学生の学力格差が生じている大学英語教育の現状を踏まえ、学習意欲のない学生や英語を不得意とする学生への対処法とよりよい大学英語授業について探求している。2018年度から、「大学英語教員の悩み」について、検

討を始め、どのような悩みを大学教員が抱えているのか、技能別、環境別に分けた上で、対応策について、検討している。

2. 活動内容

2021年6月26日(土)

関東支部大会でのSIG紹介の内容検討

2021年7月10日(土)

関東支部大会参加、SIG紹介

2021年7月31日(土)

国際大会でのJACET Hours 発表準備

2021年8月14日(土)

国際大会でのJACET Hours 発表準備

2021年8月23日(月)

国際大会でのJACET Hours 発表リハーサル

2021年8月27日(金)(8月28日(土))

第60回記念国際大会(オンライン、2021)にてJACET Hours 参加、SIG 発表

2021年9月25日(土)

第5回公開研究会

講演「DX/Society 5.0 における英語教育の可能性」

講師:小張敬之先生(青山学院大学名誉教授)

2021年11月27日(土)

第6回公開研究会

講演「授業におけるテスト・フィードバックの研究—メタ認知, 言語知識, 動機の観点から—」

講師:板垣信哉先生(宮城教育大学名誉教授・尚絅学院大学特任教授)

2022年1月16日(土)

授業学研究大会準備、大修館書店『英語教育』連載準備

2022年1月22日(土)

関東・中部・関西の3支部の授業学研究会共催の第3回授業学研究大会をオンラインで開催した。基調講演は、田地野彰先生(名古屋外国語大学教授・京都大学名誉教授・JACET 特別顧問)に「システム思考で英語授業をとらえ直す

ー ティーム・ラーニングと「意味順」指導を中心にー」というタイトルでご講演いただきました。研究発表・実践報告は4件であった。

2022年1月30日(土)

大修館書店『英語教育』4月号の連載原稿検討

2022年2月28日(土)

大修館書店『英語教育』5月号の連載原稿検討

3. 今後の活動予定

英語教員の悩み相談について、大修館書店『英語教育』の連載(2022年4月号～2023年3月号:12回)が決定したので、2022年度は、研究会の中で原稿検討を行う。公開研究会は、年1～2回実施し、講演および意見交換会を行い、より良い授業を行うための方策を検討していく予定である。さらに、関東・中部・関西3支部による第4回授業学研究大会、授業学ジャーナル発行などを行う。

■EAP研究会■

代表: マスワナ 紗矢子

副代表: 渡寛法・山田浩

EAP研究会は、学部・大学院レベルの研究および教育で重要となるEAP教育に関する理論と指導実践の研究を主な目的として活動している。日本のEAP教育環境に適した質保証の指標とEAP教員コア・コンピテンシー枠組み構築に資する研究を研究会設立当初から行っている。2021年度は2020年度に引き続きすべてオンラインでの研究活動となったが、8回の研究会および諸々のミーティングの開催を通じて研究を遂行した。具体的には、英国のEAP教員学会であるBALEAPのEAP教員コンピテンシー枠組みを基盤とした自己評価ツールのプロトタイプを開発し、日本の大学で教えるEAP教員に使用してもらった。また、BALEAP 質保証基準を参照して開発した日本版の質保証指標プロトタイプを用いて、国内大学の

EAPプログラム運営経験者に対してさらなる調査を行った。これらの研究は、科研費JP19H01286(「大学英語教育の質保証指標モデルとEAP教員コア・コンピテンシー枠組の開発」研究代表者: 飯島優雅)の一部として行っている。以上の成果をBALEAP Conference 2021、The JACET 60th Commemorative International Conventionでの英国と台湾のEAP専門家を交えてのシンポジウム、そして第4回JAAL in JACET 学術交流集会での研究発表およびSIGポスター発表を通じて公開した。聴衆との意見交換により、研究への有益な示唆を得ることができた。また、JAAL in JACET Proceedings, vol. 4 (2022)でも論文を発表している。来年度は日本のEAP教員やEAPプログラム運営者からのさらなる協力を得て研究を進めたい。また、上述の研究課題の最終年度となるため、質保証指標およびEAP教員コンピテンシー枠組み構築の研究成果をまとめ、JACET国際大会や研究会主催の国際シンポジウムで発表を行う予定である。

■English as a Lingua Franca (ELF) 研究会■

代表: 飯野 公一

多言語話者の共通語としての英語にまつわる研究・教育の振興を目的に2016年4月に設立されたELF研究会は、6周年を前に会員は117人、関東から全国各支部に及び、さらに海外大学からの参加も増えている。2021年も引き続き、コロナ禍で対面の研究会活動が制限される中、オンラインを中心に以下の活動を行った。

1. ジャーナル

JACET ELF SIG Journal (電子版) Vol. 4 & 5 合併号を9月に刊行。「インド人と日本人の自然談話のインタラクションの聞き返しの分析」、「世界各国への短期留学経験におけるELF awareness」、「ELF使用者の自己表現としてのクリエイティブライティングにおける英語使用」な

ど多様な研究成果が報告された。

した英語教育について議論。

(報告者: SIG 広報担当 瀧野みゆき)

2. ELF SIG 主催イベント

- 第 2 回・ELF SIG 国際ワークショップ
(2022 年 3 月 5 日)
- パネルディスカッション: ビジネスパーソン
5 人による、ELF と Multilingual コミュニ
ケーションについての議論
- 特別講演: Prof. Li Wei (UCL Institute of
Education, University College London)
“Translanguaging and its implications for
Intercultural Communication”
ELF と Multilingualism についてビジネス
と Translanguaging の視点から考えた本ワ
ークショップには多くの参加があり、活発な
議論が行われた。
- 会員による読書会 (2021 年 8~9 月 3 回に分
けて開催)
ELF の最新の研究を毎回各 2 件、合計 8 件
を読んで意見交換をする勉強会を開催、会員
相互から学ぶ貴重な機会となった。

3. ELF SIG 関連イベント

- (1) 愛知大学 「国際英語」教育に関する研究会
主宰フォーラム (2021 年 10 月 16 日)
International Intelligibility in the Context
of Japan: Theoretical Insights and
Instructional Implementations
- (2) JACET 第 60 回記念国際大会 (2021 年 8 月
25 日~29 日)
ELF SIG としてポスターセッションに参加、
ELF SIG 会員の発表があった他、記念大会の
JACET プログラムに協力。
- (3) 玉川大学 ELF センター CELF-ELTama
Forum for English Language Teaching
(2021 年 8 月 21 日)
Dr. Robert J. Lowe (Tokyo Kasei
University) を迎え、ELF の研究成果を生か

支部大会運営委員会からのお知らせ

支部大会運営委員長

山口高領 (秀明大学)

2022 年度の第 15 回関東支部大会は、2022 年 7 月 9 日 (土) に行われます。土曜日に変更になりましたので、ご注意ください。

変更の理由として、都内の大学で来場希望者が集える小さなスペースを確保することを検討しているからです。本稿を執筆している時点にて新型コロナウイルス感染状況はまったく読めない状況ではありますが、もし事態が好転した場合に備えてのためです。ご希望の方には対面の機会を確保したいと考えています。

大会は、Zoom を利用してオンラインで行われます。そのため、来場のための移動が不要、お手持ちの画面上で視聴したい発表を見ることができるといった長所を活かした大会を意図しました。

大会テーマは、The Exploration of New Forms of Study Abroad としました。このテーマは、お引き受けいただいた Eric Hagley 先生 (法政大学) の基調講演およびワークショップと連動しています。新型コロナを心配する中で、大会での発表応募のお知らせの時点で、このようにお知らせすることができました。

13:00 to 14:30 (90 min) Keynote Speech (Zoom)

14:40 to 16:10 (90 min) Workshop (Zoom)

The keynote title “An epoch-making time in the evolution of language teaching - The era of Virtual Exchange”

The workshop title “How to introduce your students to an international community - the

IVEProject”

大会は、昨年度と同様に、1つのZoom URLを用いる予定です。ある時間帯に複数の発表を設定する場合、Zoomのブレイクアウト機能を用いて、それぞれの発表はRoomに分けます。昨年度に急遽別のZoomに移動していただいた結果、ご不便をおかけしたことを解消することを目指しています。

SIG紹介の時間帯も設けております。せっかくZoomを利用しますので、関東支部に属さないSIGの紹介も行えればと期待しています。

2021年度から、大会実行委員長を新井先生から、私山口高領が引き継いでおります。いつでも他の先生に引き継げるよう準備しておりますが、支部長が大会委員長を兼ねる以上は、JACET本部やJACET関東支部全体を一層見渡し、シナジーの効いた大会準備をして参ります。

今年度もJACET会員の先生方は無料で参加できます。また、基調講演の前に支部総会も予定しております。多くの会員の皆さまに参加していただけますと幸いです。

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長
鈴木彩子（玉川大学）

支部紀要編集委員会では毎年3月末に紀要を発行しています。現在、2021年度「関東支部紀要・第9号（JACET-KANTO Journal Vol. 9）」完成に向けて、校正作業を行っています。第9号には計7本の応募（論文6本、研究ノート1本）があり、厳正かつ公正な審査を経た論文2本と研究ノート1本を掲載する予定です。

昨年度の紀要には13本の投稿があり、1年前のニューズレターでは、研究発表の場として広く関東支部紀要が認知され出したのではないかとご

報告をしましたが、残念ながら、今年度は投稿7本と、例年に戻ったようです。昨年度はコロナ禍で生活の変化を大きく感じたところではありましたが、今年度はそんな生活にも慣れ、対面からオンラインへの移行はあれど、多くの活動や業務が支部会員の皆さまの手元に戻ってきたからでしょうか、研究活動に関しても例年に戻ったのかもしれません。来年度は、更に質の高い紀要を目指し、昨年度並みの投稿数が得られるように、広報活動に力を入れ、研究発表の場として選んでいただけるよう努力したいと思っています。しかしながら、今年度掲載予定の論文も昨年度同様、興味深いものが揃っておりますので、紀要が手に届くまで楽しみにお待ちしております。

紀要委員会での作業に関しましては、今年度はいくつかミスがあり、投稿者及び査読者の手を煩わせる事態が生じてしまいました。これには、委員の校務の多忙化により、相互のチェック機能が通常のように働かなかったことが原因として挙げられます。来年度は同じミスを繰り返さないように、体制の見直しを行うと同時に、委員間でのコミュニケーションの充実を図る必要を感じています。委員長としての至らなさを痛感しつつ、この反省を次に活かす所存です。ご迷惑をおかけしました投稿者さま、査読者さまには、この場を借りまして、お詫びを申し上げます。また、ミスに対して寛容に対応していただいたこと、心より感謝いたします。

さて、昨年度からはWebでの発行となった紀要ですが、本年度もまずはWebでの掲載を行う予定です。現在、関東支部ではよりアクセスのしやすい形を模索しておりますので、それについては次のニュースをお待ちいただきたく思います。

紀要編集委員会メンバー：鈴木彩子（委員長）、今井光子（副委員長）、大野秀樹、長田恵理、熊澤孝昭、小屋多恵子、鈴木健太郎、中竹真依子、Paul McBride（敬称略、50音順）

事務局だより
支部事務局幹事
長田恵理（國學院大學）

JACET-Kanto Newsletter 第18号

発行日：2022年3月31日

発行者：JACET 関東支部（支部長 山口高領）

編集者：長田恵理、佐野富士子、
藤尾美佐、下山幸成

発行所：〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川
3-22-1 國學院大學人間開発学部
長田恵理 研究室内

■JACET 関東支部企画・支部講演会のお知らせ■

下記のとおり、2022年度関東支部企画及び支部講演会を実施いたします。多くの皆さまの参加をお待ちしております。詳細は支部HP、支部会員MLでお知らせいたします（諸事情により変更になる可能性があります）。

(1) 2022年度支部講演会の予定

2022年度 JACET 関東支部講演会（第1回）

日時：2022年6月11日（土）16:00-17:20

形態：オンライン

2022年度 JACET 関東支部講演会（第2回）

日時：2022年10月8日（土）16:00-17:20

形態：オンライン

2022年度 JACET 関東支部講演会（第3回）

日時：2022年12月10日（土）16:00-17:20

形態：オンライン

(2) 2022年度支部企画の予定

JACET 関東支部企画

日時：2022年11月12日（土）

形態：オンライン

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいませよう、どうぞよろしくお願ひいたします。